

世界 LNG 動向 2022 年 7 月

橋本裕*

はじめに

世界の LNG 貿易量は、2022 年上半期、前年同期比 4%強増加して、2 億トン近くとなった。なお欧州でのロシア産パイプラインガス依存低下を背景に、世界の LNG の欧州シフトが進んでいる。欧州連合 + 英国による同期間の LNG 輸入は前年同期比 50%増加して 5600 万トン程度となり、世界市場でのシェアが 28%となった。増加分は、米国産 LNG がアジアから欧州にシフトした。なお、日本の LNG 輸入量は、3754 万トン、中国が 3126 万トンとなり、国単位では日本が世界最大となっている。

輸出側では、米国が 4200 万トンの LNG を輸出し、豪州の 4000 万トン、カタールの 3900 万トンを上回った。一方で米国連邦エネルギー情報局 (EIA) は、7 月の短期エネルギー見通し (STEO) において、2022 年の LNG 輸出見通しを、日量 10.9 bcf (109 億立方フィート) (年間 8200 万トン程度) に引き下げた。6 月に発生した事故後の Freeport LNG 設備停止を織り込んだものとしている。

こうした状況を背景に、欧州天然ガススポット価格、アジアのスポット LNG 価格について、特に 2021 年後半以降の急上昇後、高価格は常態化し、時に暴噴する状況を繰り返している。日本の 4 月、5 月の LNG 輸入価格は、円安影響もあり、円建てで史上最高を更新し、6 月分もトン当たり 100,000 円を超える高水準となった。この中でも、サハリン産 LNG は相対的に低水準を維持しており、価格面でもこの供給源の維持確保が重要である。

6 月 30 日付のロシア大統領令が、Sakhalin 2 LNG プロジェクトの運営を新たなロシア法人に移管することを一方的に規定し、日本の 2 社を含む外国企業株主は、新社設立後 1 ヶ月以内に参加意思をロシア政府に通知すべしとした。日本にとって、同プロジェクトへの出資参加・調達とも、正当な権利であり、一方的なロシア側通告により脅かされる理由はない。

世界的には長期的 LNG 供給源確保に向け、調達活動、投資活動の活発化が観察される。米国メキシコ湾岸で、5-6 月に 1 件ずつ、キャパシティ合計年間 2333 万トン分の液化設備に投資決定がなされた。また 2 月末から 7 月末までに、年間 4000 万トン程度分の北米産 LNG 販売長期契約が発表された。このうち中国企業向け販売が 1100 万トンを占めているが、日本企業向けが皆無である。

* 化石エネルギー・国際協力ユニット ガスグループ

[アジア太平洋]

酒田天然ガス株式会社、株式会社 INPEX は、2022 年 7 月 15 日、LNG のカーボンニュートラル化に関する覚書を締結したことを発表した。酒田天然ガスは、INPEX よりカーボンニュートラル LNG を購入し、酒田天然ガス本社ならびに関連施設で使用する LNG をこれに転換する。

シンガポール Pacific International Lines (PIL) は、2022 年 7 月 5 日、中国の揚子江船業 (Yangzijiang Shipbuilding) に、8,000 TEU LNG 複合燃料型コンテナ船 4 隻建造契約を決定したことを発表した。いずれもアンモニア移行用の燃料タンクを備えることとなる。4 隻は 2025 年に順次引き渡されることとなる。今回の契約決定は、2022 年 3 月に 14,000 TEU LNG 複合燃料型 4 隻建造を発注した契約に続くものとなる。

シンガポール Eastern Pacific Shipping (EPS) は、2022 年 7 月 5 日、世界最初の複合燃料型 LNG 燃料のスエズマックス船 Greenway 向けに、自社が管理する船舶向けとして初めての LNG バンカリングを完了したことを発表した。中国の広船国際有限公司 (Guangzhou Shipyard International Company Limited) より 2022 年 6 月 28 日に引き渡され、7 月 4 日、マレーシア Pengerang 港湾で 1,500 トンの LNG 供給を積み込んだ。

TotalEnergies は、2022 年 7 月 20 日、ミャンマー Yadana ガス田、ガス輸送企業 MGTC から、株主、オペレーターとして、撤退が発効したことを発表した。

中国 NDRC (国家发展改革委) は、2022 年 7 月 28 日、6 月の全国天然ガス消費が 288.7 億 m³ と、前年同月比 4% 減となったと述べた。この速報値に基づくと、1 - 6 月のガス消費量は、2021 年における前年同期比 16% 増に対して、2022 年は前年同期比 2% 減となった。

パキスタン Pakistan LNG (PLL) は、2022 年 7 月 1 日、7 - 9 月の引き渡しで 10 件のスポット LNG カーゴを求める入札を行った。応札期限は 7 月 7 日だった。引き渡しを求めた時期は、7 月末 2 件、8 月 5 件、9 月 3 件だった。応札はなかった模様。

豪州連邦産業・科学・資源省は、2022 年 7 月 5 日、国内ガス供給セキュリティ制度 (ADGSM = 東部市場の供給不足予見時に、東部 LNG 輸出企業に国内供給確保を求める) の現行形態での延長を提案した。別途、同制度の中身の改善に関しても、既に 6 月に提案中。

豪州 Venice Energy は、2022 年 7 月 1 日、サウスオーストラリア州の LNG 輸入基地プロジェクトに関して合弁事業を形成するため、丸紅と MOU を締結したことを発表した。同基地はアデレード港の Outer Harbor 航路に 2 本の棧橋、浮体貯蔵・気化設備 (FSRU) 1 件、超低温配管、随伴インフラストラクチャーが含まれることとなる。LNG 気化ガスは、サウスオーストラリア州、ヴィクトリア州のガスパイプライン網に供給されることとなる。

豪 Viva Energy Group Limited は、2022 年 7 月 27 日、GeelongPort との間で、Geelong 港湾での Viva Energy Gas Terminal 計画向けの埠頭・着岸用インフラストラクチャー建設・整備に関して諸契約を発表した。今回の合意には、恒久的に繋留する浮体貯蔵・気化設備 (FSRU) のための追加棧橋を設置するための既存精製設備埠頭の延伸建設が含まれる。GeelongPort が既存精製設備埠頭の延伸を建設する。Viva Energy はガスパイプライン、

処理設備含め関連インフラストラクチャーを建設する。

豪 Worley は、2022 年 7 月 12 日、 Santos Limited が自社 Bayu-Undan 炭素回収・貯留 (CCS) プロジェクトの業務委託契約を Worley に決定したことを発表した。Worley は基本設計 (FEED) 業務を請け負う。Bayu-Undan 設備・ガス輸送パイプライン沖合区間の炭化水素から二酸化炭素用への転換も含む。

シンガポール Aslan Energy Capital、インドネシア PT Agri Maritim Sulteng は、2022 年 7 月 5 日、 Aslan Energy Capital がセントラルスラウェシ州 Palu 経済特区 (SEZ) に、太陽光発電・グリーンアンモニア製造設備含むグリーンエネルギーハブプロジェクトを開発する協力協定を締結したことを発表した。同協定には Palu SEZ でのカーボンニュートラル LNG 輸入基地を含む。

シンガポール企業 Twenty20 Energy は、2022 年 7 月 11 日、自社固有 Power Island Floating Storage Regasification & Power (FSRP) 方式を、パプアニューギニア (PNG) 12 地点に、 PAWA PNG 向けに展開することを発表した。PAWA PNG プロジェクトは、Dirio Gas & Power 社と同国政府間の合弁事業で、283 MW の電力供給で、ディーゼル発電を、近代型・高効率の LNG・熱回収方式の発電により代替する。

TotalEnergies は、2022 年 7 月 20 日、 Papua LNG 合弁事業による、上流側生産諸設備の基本設計 (FEED) 第 1 段階開始決定を発表した。発表によれば下流側液化諸設備の検討は進行中で、統合型 FEED を 2022 年第 4 四半期に開始することを目標としている。同プロジェクトは 2023 年末頃最終投資決定 (FID)、稼働開始は 2027 年末頃を目指している。同プロジェクトは、ガス田固有の CO₂ のために、炭素回収・貯留 (CCS) を織り込む。

[北米]

Cheniere Energy は、2022 年 7 月 20 日、 Cheniere Marketing, LLC が中国石油天然气股份有限公司 (PetroChina) 子会社と、長期 LNG 売買契約 (SPA) を締結したことを発表した。最大年間 180 万トンの LNG を、FOB 条件で売買、引き渡しは 2026 年開始、2028 年に 180 万トンに達し、2050 年まで続く。価格はヘンリーハブ連動で固定液化手数料を加える。総量の半分は、Cheniere が Corpus Christi LNG 設備の 7 系列 Corpus Christi Stage 3 プロジェクトを超えての追加液化容量建設に最終投資決定を行うことが条件となる。

Cheniere Energy は、2022 年 7 月 26 日、 Corpus Christi Liquefaction, LLC (CCL) がタイ PTT Public Company Limited (PTT) 子会社との間で長期 LNG 売買契約 (SPA) を締結したことを発表した。年間 100 万トンの LNG を、2026 年から 20 年間、引き渡しは FOB、DES 混合となる。価格はヘンリーハブ連動プラス固定液化手数料となる。

Sempra、ConocoPhillips は、2022 年 7 月 14 日、 Sempra Infrastructure ・ ConocoPhillips が、 Sempra Infrastructure の Port Arthur LNG プロジェクト開発に関して、基本合意 (HOA) を発表した。テキサス州ジェファーソン郡に開発中の Port Arthur LNG プロジェクト第 1 段階で年間 500 万トンの 20 年間 LNG 液化加工契約交渉を想定する。また

ConocoPhillips による第 1 段階 30%出資参加可能性を織り込んでいる。ConocoPhillips は Port Arthur LNG 敷地での将来の開発について、追加 LNG 系列、低炭素の水素インフラストラクチャーを含め、LNG 引き取り・出資参加のオプション権を持つこととなる。Sempra Infrastructure は Port Arthur LNG プロジェクトと関連付けテキサス州、ルイジアナ州で ConocoPhillips が開発する炭素回収・貯留（CCS）プロジェクトに参加する機会を持つこととなる。Port Arthur LNG プロジェクト第 1 段階は、LNG 年間 1350 万トンの生産に向け、天然ガス液化系列 2 本、LNG 貯蔵タンク群、関連諸設備を含む。同規模第 2 段階プロジェクトも開発中である。さらに今回の HOA は、メキシコ バハカリフォルニア州 ECA LNG 輸出プロジェクトに関して、両社協力の基本条件を含む。

Sempra Infrastructure、Entergy Texas, Inc. は、2022 年 7 月 26 日、Sempra Infrastructure の諸設備が開発中の、Entergy Texas のテキサス州南東部供給地域の、再生可能エネルギー発電源拡大加速、電力供給レジリエンス強化に向けた諸オプションの開発に向けた覚書（MOU）を締結したことを発表した。

FERC（米連邦エネルギー規制委員会）は、2022 年 7 月 19 日、発行した書簡で、FERC 事務局がテキサス州 Freeport LNG 輸出設備に、2022 年 9 月 13 日から 15 日まで、点検視察を実施することを通知した。

Tellurian Inc. は、2022 年 7 月 13 日、自社生産子会社による、非上場 EnSight IV Energy Partners, LLC ・ EnSight Haynesville Partners, LLC 両社よりの Haynesville Shale 地域の天然ガス資産を買い取る契約を発表した。

米 NextDecade Corporation は、2022 年 7 月 5 日、中国燃气控股有限公司（China Gas Holdings Limited）子会社との間での、NextDecade のテキサス州ブラウズヴィル Rio Grande LNG 輸出プロジェクト（RGLNG）から FOB 条件で、年間 100 万トン、20 年間の SPA を発表した。早ければ 2027 年稼働開始見込みの RGLNG 第 2 系列から供給される。

NextDecade は、2022 年 7 月 6 日、中国の广东省能源集团有限公司（Guangdong Energy Group (GEG)）との間での、RGLNG からの LNG についての 20 年間の SPA を発表した。GEG は、ヘンリーハブ連動・DES 条件で、年間 100 万トンの LNG を購入することとなる。早ければ 2026 年稼働開始見込みの RGLNG 第 1 系列から供給されることとなる。

NextDecade は、2022 年 7 月 27 日、ExxonMobil LNG Asia Pacific（EMLAP）との間で、RGLNG からの LNG について、20 年間の SPA を発表した。EMLAP は年間 100 万トンの LNG を購入する。RGLNG 最初の 2 系列から供給されるものとしている。

Delfin Midstream Inc は、2022 年 7 月 13 日、Vitol と LNG SPA を締結したことを発表した。Vitol は同社への戦略的投資も決めた。Delfin は、ルイジアナ州 40 海里沖合 Delfin Deepwater Port より FOB 条件で、15 年間・年間 50 万トンを Vitol に供給する。本 SPA は、ヘンリーハブ指標連動となる。FERC は、2022 年 7 月 21 日、Delfin LNG が同プロジェクトの陸上部分の稼働開始期限を、2023 年 9 月まで延期することを要請したことを明らかにした。

Fluor Corporation は、2022 年 7 月 11 日、New Fortress Energy Inc. (NFE) より、NFE Fast LNG 2 プロジェクトの、エンジニアリング・調達・組み立て管理業務の本格推進 (FNTP) 契約を受注したことを発表した。同プロジェクトは、公称年間 140 万トン LNG ガス処理・液化設備を固定洋上プラットフォームに設置する。Fast LNG 2 プロジェクトは、2022 年 NFE が Fluor に発注した 2 件目の洋上モジュラー型中規模 LNG 設備となる。最初の NFE Fast LNG 1 プロジェクトは第 1 四半期に受注となった。

Wood Mackenzie, Inc.、Ball Corporation は、2022 年 7 月 13 日、Global LNG Liquefaction Monitoring を発表した。これは液化系列のステータスに関してリアルタイムに近い情報を提供する。このツールは、Ball の衛星取り扱い・遠隔分析能力と Wood Mackenzie の米国液化設備現場情報との組み合わせのツールである。

米 Pioneer Natural Resources Company、Devon Energy Corporation、ConocoPhillips は、2022 年 7 月 14 日、OGMP 2.0 への参加を発表した。

Vanguard Renewables は、2022 年 7 月 20 日、BlackRock Real Assets 傘下のファンドにより、Vision Ridge Partners から買い取られたことを発表した。Vanguard Renewables は米国内で、再生可能天然ガス製造のため、2026 年までに 100 件以上の嫌気性消化装置を稼働する計画である。

Marathon Petroleum Corporation 子会社 Trans-Foreland Pipeline Company LLC 社は、2022 年 7 月 7 日、閉鎖したアラスカ州 Kenai LNG 輸出設備を、輸入設備として稼働復帰する期限の 3 年間延長を米連邦エネルギー規制委員会 (FERC) に要請した。FERC は、2020 年 12 月 17 日に、同 LNG 輸入設備を 2 年後に稼働開始することを、Trans-Foreland 社に承認していた。

Siemens Energy は、2022 年 7 月 12 日、カナダのブリティッシュコロンビア州スクワミッシュ近くの全電化 Woodfibre LNG プロジェクトへの単独ソリューション供給者として選定されたことを発表した。同 LNG 設備は、旧製紙工場跡地に立地することとなる。規模は年間 210 万トン、水力発電を活用する。Siemens Energy 担当範囲は、主冷凍系列に伴う全機器を含む。2027 年実質完成、同年 9 月までに稼働開始が見込まれている。

TC Energy は、2022 年 7 月 28 日、Coastal GasLink LP は、同パイプラインプロジェクトのコスト見積りの修正 112 億カナダドル (従来見積 66 億カナダドル) を織り込み LNG Canada とのプロジェクト契約を修正したことを発表した。同社は、この 670-km プロジェクトは 70%完成し、8 区間中 2 件は完成し、2023 年末までに機械的には稼働開始見込み、と述べた。

Buckeye Partners, L.P. (IFM Global Infrastructure Fund (IFM GIF) 傘下) は、2022 年 7 月 13 日、過去に発表していた Bear Head Energy, Inc. 買収を完了したことを発表した。ノヴァスコシア州 Point Tupper にて、2 GW 水素電解装置のグリーン水素・アンモニア製造・貯蔵・輸出プロジェクトを開発している。

米 New Fortress Energy (NFE) は、2022 年 7 月 5 日、メキシコ電力公社 (CFE) と契

約を締結したことを発表した。これには (i) NFE による CFE のバハカリフォルニアスル州の複数の発電設備への天然ガス供給の拡大、(ii) NFE の 135 MW La Paz 発電設備の CFE への売却、(iii) タマウリパス州アルタミラ沖新規 LNG ハブ創設・CFE が NFE の FLNG 設備 2 件に原料ガスを供給することを含む。2021 年 7 月、NFE はバハカリフォルニアスル州ラパス Pichilingue 港湾で LNG 気化基地を稼働開始した。同基地は NFE 固有の ISOFlex 方式を採用し、CFE の複数の発電設備にガスを供給する。

NFE は、同日、メキシコ国有 Petróleos Mexicanos (Pemex) と、長期戦略パートナーシップ形成に向け協定を締結したことを発表した。Lakach 大水深天然ガス田を Pemex による国内市場向け供給、NFE による輸出 LNG 生産用に、共同開発する。NFE は同ガス田開発に、2 年間投資を行い、7 本の沖合生産井完成のため投資を行う。NFE は同ガス田に、生産される天然ガスの太宗を液化すべく、年間 140 万トン FLNG 設備 1 基を配置する。残りの天然ガス、随伴コンデンセートは、Pemex が国内市場向けに活用する。

Shell Eastern Trading (Pte) Ltd、Mexico Pacific Limited 子会社は、2022 年 7 月 12 日、Shell が Mexico Pacific のメキシコのソノラ州 Puerto Libertad の LNG 輸出設備最初の 2 系列より、LNG 年間 260 万トンを引き取る売買契約を締結したことを発表した。Shell は FOB 条件で 20 年間購入する。完全稼働すれば同設備は 3 系列合計年間 1410 万トン容量を持つこととなる。同設備は 2026 年稼働開始予定である。

Sempre Infrastructure、メキシコ電力公社 (CFE) は、2022 年 7 月 21 日、ソノラ州 Guaymas-El Oro パイプライン、シナオラ州トポロバンポの Vista Pacífico LNG プロジェクト、オアハカ州サリーナクルスの LNG プロジェクト可能性まで、エネルギーインフラストラクチャープロジェクトを共同開発するための数本の協定を締結したことを発表した。

[中東]

カタール QatarEnergy、Shell は、2022 年 7 月 5 日、North Field East (NFE) 拡張プロジェクトに、Shell がパートナーの 1 社として選定されたことを発表した。新たな合弁事業体 (JV) で QatarEnergy が 75%、Shell が 25%を保有することとなる。転じてこの JV は NFE プロジェクト全体の 25%を持つことになる。同プロジェクトは超巨大 LNG 系列 4 本で合計設計容量年間 3200 万トンを持つ。

ロシア Gazprom は、2022 年 7 月 19 日、自社とイラン NIOC (National Iranian Oil Company) が戦略的協力に関する覚書 (MOU) を締結したことを発表した。協力可能性としては、イランにおけるガス田、油田の開発、大型・小規模 LNG プロジェクト、ガスパイプライン、技術協力が含まれる。

[アフリカ]

Eni および、アンゴラ New Gas Consortium (NGC) 参加企業である Chevron 関連会社、Sonangol P&P、bp、TotalEnergies およびアンゴラの石油・ガス・バイオ燃料機関

ANPG は、2022 年 7 月 27 日、Quiluma、Maboqueiro (Q&M) ガス田群開発の最終投資決定 (FID) を発表した。本件はアンゴラ初の非随伴ガス開発プロジェクトで、沖合井戸元プラットフォーム 2 件、陸上ガス処理設備、Angola LNG 設備への接続が含まれる。プロジェクト建設は 2022 年開始、2026 年ガス生産開始、年間 40 億 m³ (4bcm) の生産が見込まれる。New Gas Consortium 参加企業は Eni (25.6%, オペレーター)、Chevron 関連会社 (31%)、Sonangol P&P (19.8%)、bp (11.8%)、TotalEnergies (11.8%)。

Saipem は、2022 年第 2 四半期業績報告会で、モザンビークでのプロジェクトは引き続き停止しており、2022 年中の再開は見込んでいない、と述べた。同社はさらに、同プロジェクトの再開は、2021 年末からの原材料費のインフレーションに伴う追加コストを織り込み、顧客側との再交渉に基づくものとなる、と述べた。

[欧州・ロシア]

2022 年 7 月 26 日、欧州連合エネルギー理事会は、次の冬の天然ガス需要 15%自主的削減に関する政治合意に達した。本理事会規制は、供給セキュリティに関して、ガス需要削減を義務化する「連合アラート」段階とする可能性を想定している。加盟諸国は、2022 年 8 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで、加盟諸国の方策により、過去 5 年間の平均消費量からガス需要を 15%削減すること合意した。なお諸国の事情を勘案して、適用除外、および義務的削減目標からの不適用申請の可能性に関して、具体的に示した。

欧州議会は、2022 年 7 月 6 日、原子力・ガス関連事業の一部を、一定条件の下、EU タクソノミーにて環境面で持続性ある経済活動と位置付ける、欧州委員会のタクソノミー規則案に反対しないことを決議した。

英国の北海トランジション当局 (NSTA) は、2022 年 7 月 21 日、Centrica offshore UK Ltd (COUK) に、北海南部イングランド東方沖 Rough 地点でのガス貯蔵ライセンスを認めた。この認定により、COUK はガス貯蔵事業開始前に必要なその他の規制承認手続きに進めることとなる。

英 Grain LNG は、2022 年 7 月 4 日、2029 年からの容量に関して、関心表明を市場参加者に招請したことを発表した。申請を希望する場合、8 月 15 日までに非拘束の関心表明を行う。Grain LNG は、2029 年までに既存の容量契約が複数終了する。その結果、2029 年開始で貯蔵容量 360,000 m³ 以上、気化容量日量 300 GWh 以上をオファーできるものと見込んでいる。

豪 Wooley は、2022 年 7 月 14 日、三菱重工 (MHI) ・ Tecnicas Reunidas との連合により、SSE Thermal ・ Equinor による英国で最初の炭素回収・貯留 (CCS) 付のひとつとなる Peterhead の発電設備開発契約を受注したことを発表した。年間最大 150 万トンの CO₂ 排出を回収することを目指している。

オランダ Gasunie 子会社 EemsEnergyTerminal 社は、2022 年 7 月 7 日、エームスハーフェン港の基地を通じて LNG を供給する最初の複数の供給契約者を発表した。ČEZ a.s. ・

Shell Western LNG B.V. が共同で容量 70 億 m³ (7 bcm) を契約した。同港 LNG 基地は、2 基の FSRUs (浮体貯蔵・気化設備) Exmar S188 ・ Golar Igloo で構成される。S188 は最近ロッテルダム港に到着した。両 FSRUs とも、8 月末にエームスハーフェン到着見込みとされる。Golar Igloo が先ずオランダ国内天然ガス網に接続されることとなる。両 FSRUs 合計処理容量は年間 80 億 m³ (8 bcm) となる。

Shell は、2022 年 7 月 6 日、子会社 2 社による、2025 年稼働開始時点で欧州最大の再生可能水素製造設備となる Holland Hydrogen I 建設への最終投資決定 (FID) を発表した。200 MW 水電解水素発生装置はロッテルダム港 Tweede Maasvlakte に建設され、最大日量 60,000 kg の再生可能水素を製造する。同装置向けの再生可能電力は、自社が一部所有する Hollandse Kust (noord) 洋上風力設備から来ることとなる。

欧州委員会 (EC) は、2022 年 7 月 12 日、ウクライナへのロシア侵攻の文脈で、オランダ Bergeermeer ガス貯蔵設備への充填支援に関する最大 4.064 億ユーロの同国の支援制度を承認したことを発表した。今回の支援は、冬季・夏季ガス価格差が逆転する場合の保険の形態をとる。

オランダの LNG 供給企業 Titan は、2022 年 7 月 15 日、6000-m³ LNG バンカリング船舶 Optimus をエストニア Elenger から備船したことを発表した。

Technip Energies は、2022 年 7 月 26 日、Technip Energies Loading Systems が TotalEnergies 向けに、フランスのルアーブルでの浮体気化・気化設備 (FSRU) プロジェクト向けに、ローディングアームを供給することとなることを発表した。この荷揚設備は、ルアーブル Bougainville 棧橋に設置されることとなる。同プロジェクトは、TotalEnergies ・ フランスエコロジー・トランジション省が発起した。

ドイツ Uniper は、2022 年 7 月 4 日、連邦通商監視当局 Oldenburg が、Wilhelmshaven LNG 基地および陸上・港湾インフラストラクチャー建設早期開始を承認したことを発表した。最大年間 75 億 m³ の天然ガスを取り扱うこととなる。連邦経済・気象保護省、Uniper は、2022/2023 年冬季のコミッショニングを目指している。

ドイツ FRIEDRICH VORWERK 社は、2022 年 7 月 12 日、Brunsbüttel LNG 基地接続パイプライン契約を獲得したことを発表した。FRIEDRICH VORWERK グループ・オーストリア HABAU グループ間の均等合弁事業により実施される。本件は、Wilhelmshaven 接続パイプライン (WAL) に続き、FRIEDRICH VORWERK にとりドイツで計画中の LNG 基地接続プロジェクトとして 2 件目である。Brunsbüttel 立地の最初の浮体 LNG 基地は、2022 年末までに稼働開始予定である。

German LNG Terminal GmbH (GLNG) 社は、2022 年 7 月 22 日、顧客との最終的なコマーシャル契約を締結するプロセスにある、と述べた。関心表明手続きが 2019 年 10 月 - 11 月に実施された現在利用可能な容量に加え、追加年間 18 億 m³ 基地容量がオファーされている。この容量は 2026 年半ばから利用可能となる。GLNG はこの追加容量への市場参加企業の関心を判断するための関心表明手続き期間を開始する。関心ある企業は、2022 年 8

月 5 日までに参加登録の必要がある。

ドイツのルプミン (Lubmin) 港湾で LNG 輸入基地を開発する Deutsche ReGas 社は、2022 年 7 月 13 日、TotalEnergies 社と、後者が同プロジェクト向けに FSRU 1 隻を用意する基本合意を締結したことを発表した。Deutsche ReGas は、FSRU "Deutsche Ostsee" が、2022 年 12 月 1 日に年間 45 億 m³の送出を開始する、と述べた。

ドイツ連邦経済省は、2022 年 7 月 19 日、計画している浮体 LNG 基地 (FSRU) 設置点 3 件目、4 件目を発表した。Stade、Lubmin に繋留される。連邦政府は 4 隻賃借する。2 件は 2022 年利用可能で、Wilhelmshaven、Brunsbüttel にて 2022/23 年の代わり目に利用開始予定である。今回の 2 隻は 2023 年 5 月から利用可能となる。Stade 地点は 2023 年末から利用可能となる見込み。Lubmin 沖は早くても 2023 年末以降となる。Lubmin では、もう 1 件 FSRU 基地が民間連合により 2022 年末までに建設される (前段落記載)。Hanseatic Energy Hub (HEH) は、2022 年 7 月 20 日、Stade 陸上基地のためのニーダーザクセン州港湾当局 NPorts が担当する既存工業港湾の拡張は、既に承認段階にあり、2023 年末までに完了見込みと述べた。

ドイツ Uniper は、2022 年 7 月 22 日、連邦政府、Uniper、Fortum が Uniper を資金面で、また Uniper のドイツエネルギー供給における枢要役割を安定化する諸策パッケージに合意したことを発表した。政府は交渉の間、Uniper に、2022 年 10 月 1 日から、ガス輸入企業全てにロシア産ガス供給喪失分代替コストの 90%転嫁のメカニズムを導入する計画であることを通知した。

IVECO は、2022 年 7 月 14 日、ドイツ Hegelmann Group が 150 IVECO S-WAY LNG トラクター150 台、IVECO S-WAY CNG トラクター10 台を発注したことを発表した。Hegelmann の保有者としては、既に LNG 燃料の IVECO トラック 20 台を含んでいる。

ノルウェー石油類・エネルギー省は、2022 年 7 月 4 日、Troll, Gina Krog, Duva, Oseberg, Åsgard, Mikkell ガス田の生産増加に関して、操業企業からの申請を承認したことを発表した。同省はまた、近い将来稼働開始が見込まれる Nova ガス田の生産許可も行った。これらガス田群のガス販売総量は、2022 年、1220 億 m³に達する見込み。

ノルウェーの業界団体 Norwegian Oil and Gas (Norsk olje & gass) は、2022 年 7 月 5 日、Norwegian Organisation of Managers and Executives (Lederne) メンバーによるストライキ原因である賃金紛争を強制仲裁することを政府が決定した、と述べた。

ノルウェー Equinor は、2022 年 7 月 12 日、Sleipner A ガス田タービン 1 基関連の限定されたエリアでのガス漏洩が前日朝に報告されたことを発表した。生産再開・圧抜きの中で、その晩、Sleipner R ライザープラットフォームで追加的ガス漏洩が発生した。

スペイン Enagás は、2022 年 7 月 12 日、2022 - 2030 戦略計画を公表した。同社は 2030 年までに 27.75 億ユーロを投資する計画である。欧州 REPowerEU 文書に含まれる相互接続プロジェクトも含むと、この数字は 47.55 億ユーロに増加する。2030 年までにスペインは、水素年間 210 億 m³、200 万トン相当を欧州に供給でき得る、としている。これは欧州

で見込まれている水素生産の 20%に相当する。

Enagás は、2022 年 7 月 8 日、El Musel 気化基地に関して、生態系移行・人口動態省より承認を受けたことを発表した。LNG のロジスティクスサービスのための設備として使える特別制度の自国市場・競争委員会 (CNMC) 認証、同省の稼働開始指令と手続きが続くとしている。同基地は、LNG 輸送船舶から荷揚、様々な欧州内仕向先への迅速積み込みを行う。

イタリア Snam は、2022 年 7 月 6 日、Snam ・ BW LNG が Snam Group による FSRU I Limited 株式 100%取得契約を締結したことを発表した。この会社は取引完了後、唯一の資産として浮体貯蔵・気化設備 (FSRU) "BW Singapore" を所有することとなる。同 FSRU は、LNG 輸送船舶としても運航できる。同 FSRU は、2023 年 11 月まで第三者の傭船契約に拘束されているが、アドリア海北部ラベンナ近くに設置される見込み。2024 年第 3 四半期に稼働開始予定である。

イタリアの 2022 年 7 月 15 日付政令 (エコロジー・トランジション省起案) によると、Gestore dei Servizi Energetici GSE S.p.A. (Energy Services Operator = GSE) が、2022 年 12 月までのガス貯蔵・その後の販売までのために、天然ガスの購入を通じて、ラストリゾートの充填業務を、40 億ユーロまでの限度内で提供する。

イタリア Snam、Edison は、2022 年 7 月 25 日、自国小規模 LNG 市場開発で協力する基本合意 (MOU) を発表した。発表によると、自国貨物輸送用 LNG 市場は、既にトラック 4,000 台、充填ステーション 130 件、年間消費量 200,000 トン規模となっている。

Excelerate Energy、ブルガリア Overgas は、2022 年 7 月 18 日、Excelerate が計画するアルバニア Vlora LNG 基地下流での LNG 気化ガス販売に関して、14 日に覚書 (MOU) を締結したことを発表した。

ハンガリー政府は、2022 年 7 月 13 日、エネルギー緊急事態を宣言、ガス・電気代上限を 8 月から平均消費水準に限定、エネルギー・薪の輸出禁止、国内ガス生産、石炭生産、石炭火力発電増加、原発の延命検討開始等の 7 策を承認した。欧州委員会 (EC) エネルギー担当理事は、14 日、欧州単一市場にてガスその他エネルギーの国境間フローを制限する諸策を含むハンガリー政府の発表にコメントした。同国政府はこれら諸策に関して EC に事前通知しなかった。コメントによると、現在のガス市場状況でガスの国境間の流れに影響する個別加盟国の制限措置は認められず、諸問題を悪化させる可能性が高いとしている。

ICGB (Interconnector Greece-Bulgaria) は、2022 年 7 月 8 日、建設作業の終了を発表した。同パイプラインは、ギリシャのガス輸送網、Trans-Adriatic パイプラインに、Komotini 市近くのガス計量ステーションにて接続する。7 月初旬、ICGB は独立輸送網操業企業として認定された。

フィンランド Hamina LNG Oy は、2022 年 7 月 1 日、ハミナ港湾での LNG 輸入基地の 10 月の稼働開始に向け、基地容量・関連サービスを提供するオープンシーズンを発表した。

エストニア Eesti Gaas は、2022 年 7 月 12 日、ノルウェー Equinor と、LNG 2 TWh

(132 千トン) の契約を締結したことを発表した。ガスはリトアニア Klaipėda LNG 基地に 10 月、11 月に到着する。Eesti Gaas はこれまでにポーランド PGNiG より LNG カーゴ 3 件を調達した。5 月初、6 月初に米国産 LNG、6 月末ノルウェーから、カーゴが Klaipėda 基地に到着した。

ロシア Gazprom は、2022 年 7 月 1 日、上半期の自社ガス生産は 2384 億 m³ と、前年同期比 8.6% (224 億 m³) 減となったことを発表した。非 CIS 諸国への輸出は 689 億 m³ と、前年同期比 31% (310 億 m³) 減となった。中国向けパイプラインガス供給は 2022 年前半、63.4%増加したとのこと。

カナダの天然資源相は、2022 年 7 月 9 日、自国政府は、Siemens Canada に、修繕された Nordstream 1 タービンのドイツへの返還を認める時限付・撤回可能な許可を行う、と述べた。ウクライナの外務省、エネルギー省は、同タービンのドイツへの返還に許可を発行するカナダ政府の決定に不満を表明した。欧州委員会は、2022 年 7 月 12 日、カナダ政府の決定を歓迎する、と述べた。

ロシア Gazprom は、2022 年 7 月 13 日、Siemens が Portovaya CS 向けのガスタービンエンジンをカナダから持ち出せる文書を何も持っていない、と述べた。Portovaya CS の安全な運転に関して今後の動きについて客観的な結論に至ることは不可能な模様、と述べた。Gazprom は、7 月 15 日、Portovaya CS 向けガスタービンの返還に必要な文書を提供することを Siemens に公式に要請したことを明らかにした。

Gazprom は、2022 年 7 月 25 日、Portovaya CS (コンプレッサーステーション) における Siemens ガスタービンエンジンさらに 1 基の稼働を停止する計画である、と述べた。この結果、Portovaya CS における流量は、7 月 27 日モスクワ時間 07:00 より、3300 万 m³ (33 mcm, キャパシティーの 20%) に低下する、と述べた。

欧州司法裁判所 (ECJ) は、2022 年 7 月 12 日、Nord Stream 2 AG 社が、天然ガス域内市場における一部諸規則を第三国からのパイプラインにも適用する指令に異議を唱えた訴えに関して、一部理ありとの判断を下した。

【南米】

Fluxys は、2022 年 7 月 21 日、自社および機関投資家 EIG が、Enagás ・ OMERS Infrastructure それぞれから、チリ基地企業 GNL Quintero 株式の合計 80%分買い取りを完了したことを発表した。

大阪ガス株式会社、丸紅株式会社、Peru LNG S.R.L. 社は、2022 年 7 月 14 日、ペルーでのメタネーションによる合成メタンの製造や販売に関する事業性を調査・検討することに合意したことを発表した。

参考資料: 各社発表, Cedigaz News Report.

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp